

平成28年度「GKP広報大賞」エントリーシート

エントリーする団体名の名称 メタウォーター株式会社	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 千葉弘行 (CSR 推進室 広報 IR 部)
代表者氏名 代表取締役社長 木田 友康	TEL : 03-6853-7317 E-mail: chiba-hiroyuki@metawater.co.jp

(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】
------------------------	-----------------------------

部門名 テレビ報道部門	事例名 地元テレビ局を活用した「女川町水産加工団地排水処理施設整備等事業」のPR
----------------	---

震災で甚大な被害をうけた女川町の基幹産業である水産加工業の早期復興と女川湾の環境保全を目的とした排水処理施設整備等事業について、地元テレビ局へ番組制作を働きかけ実現させた。テレビ媒体を通じて配信することで、再建を目指す水産加工業者をはじめとする地元を元気づけ、女川の美しい海を守る「水インフラ」の重要性を広く市民に伝えた。また、制作番組は二次利用し、会社事業を通じて外部関係者に提供することで、水インフラの価値を継続的に訴求するツールとして活用している。

Step1 排水処理施設の落成式の模様をローカルニュースで紹介

2015年4月10日18:20~18:55 放送 東日本放送「スーパーJチャンネルみやぎ」

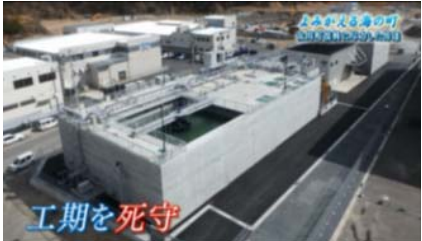
落成式の模様のほか、女川町 須田町長のインタビューなど、約2分にわたり紹介。



Step2 ニュース報道をトリガーに本事業の特別番組を制作

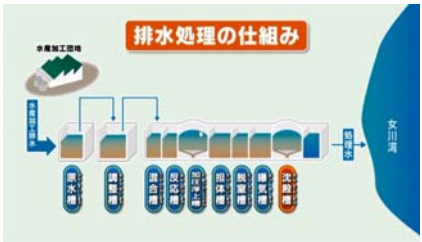
2015年12月26日11:20~11:45 放送 東日本放送「よみがえる海の町」~排水処理施設建設に尽力した男達~

「復興」を合言葉に施設の完成に向けた、女川町をはじめとする関係者の努力と苦勞を、町の復興の歩みとともに紹介。



Step3 特別番組の素材を再編集し、事業概要や排水処理の仕組みを紹介するPR映像を制作

施設見学、女川町のイベント、町内・近隣小中学校の学習用、環境イベントなどで積極的に活用。



エントリー事例の特徴

■社業として震災を伝える使命を持つ地元テレビ局に、震災復興のフロントランナーとして注目を集める女川町の復興事業の新たなシンボルとして提案。まずは落成式のニュース報道で本事業への注目を促した。

■番組制作にあたり、映像素材の二次利用＝PR映像制作を前提とした。

■番組は、施設の設計・建設での工夫や苦勞談を軸に、施設建設の進捗と町の復興の進捗とをからめた構成とした。

■番組の放送日を年末とすることで、宮城県内へ帰省された方々の視聴も取り込む。

■世帯視聴率:2.6%(約25,000世帯) 占拠率:11.6%

* 占拠率:本番組放送時間にテレビを観ていた全世帯のうち、本番組を観ていた世帯の割合

付属資料の提出	あり ・ なし (どちらかに○)
---------	------------------